九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

古地図について ： 九州文化史所蔵の福岡城下図

梶嶋, 政司
九州大学附属図書館記録資料館九州文化史資料部門 ： 助教 ： 九州近世史

https://hdl.handle.net/2324/9093

出版情報：貴重文物講習会. 5, 2008-02-18. 九州大学附属図書館
バージョン：
権利関係：

古地図について
ー九州文化史所蔵の福岡城下図ー

記録資料館九州文化史資料部門
梶嶋政司

目次

１　九州文化史の資料収集活動と所蔵資料の概要

２　三奈木黒田家文書423「福岡城下町・博多・近隣古図」について

３　吉田家文書528「福岡城下図」について

九州文化史研究所の設置

- 昭和9年、法文学部内に九州文化史研究所設置
- 設置に至る経過

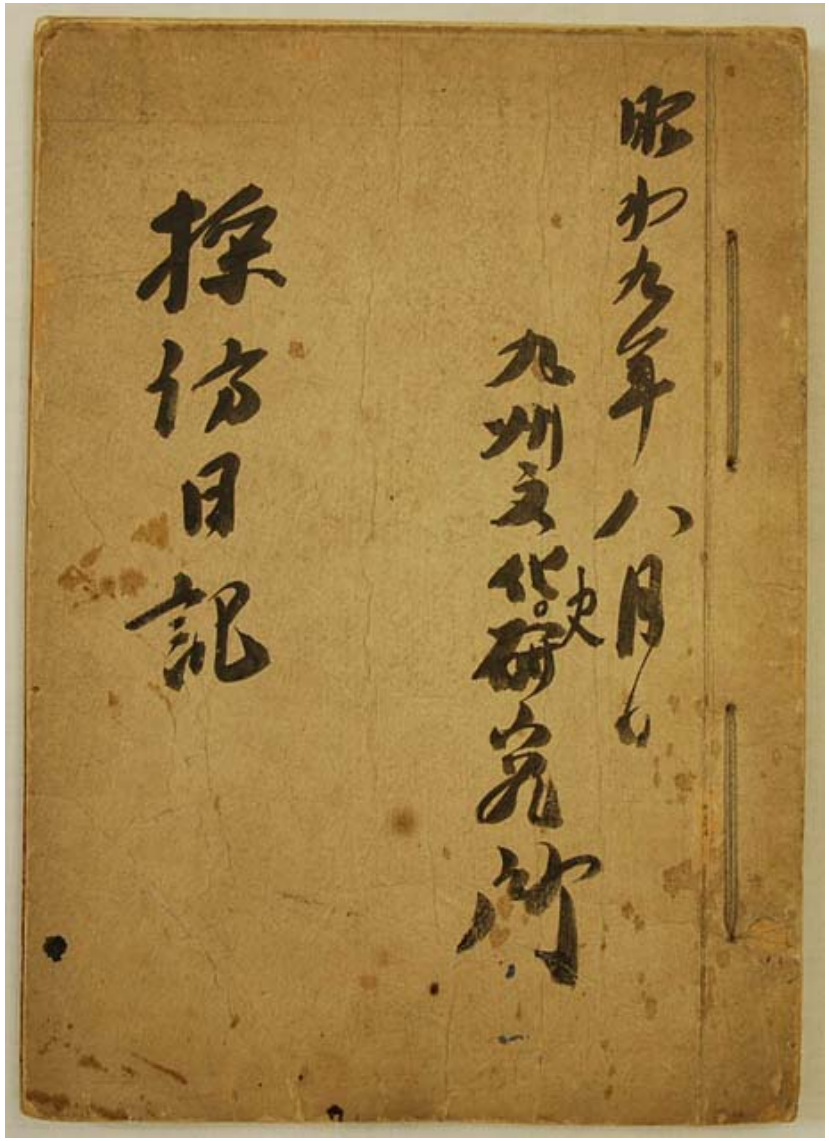
・大正１５年１月の法文学部教授会で史料蒐集のための調査委員会設置が提案されたことに始まる。

・昭和2年4月、国史学初代教授長沼賢海が「史料蒐集ニ関スル件」を提出、同8年6月の評議会で取り上げられ、史料蒐集のための予算措置が講じられる。

草創期のスタッフ

- 長沼賢海（明治16～昭和55） 国史学
  大正13年より法文学部国史学科教授、昭和12年法文学部長、同18年定年退官。
- 金田平一郎（明治33～昭和24） 法制史
  昭和4年より法文学部講師、同9年9月頃には助教授、同15年教授、同23年図書館長。
- 宮本又次（明治40～平成3年） 経済史
  昭和17年より法文学部助教授、同20年教授、同26年大阪大学法経学部教授。
- 遠藤正男（明治34～昭和15） 経済史
  昭和5年より法文学部副手、同7年助手、同9年講師、同11年助教授。
- 鏡山猛（明治41～昭和59） 考古学
  法文学部副手を経て昭和9年より助手、同11年講師。戦後、同26年教職追放解除により文学部助教授、同33年教授。

草創期の資料収集



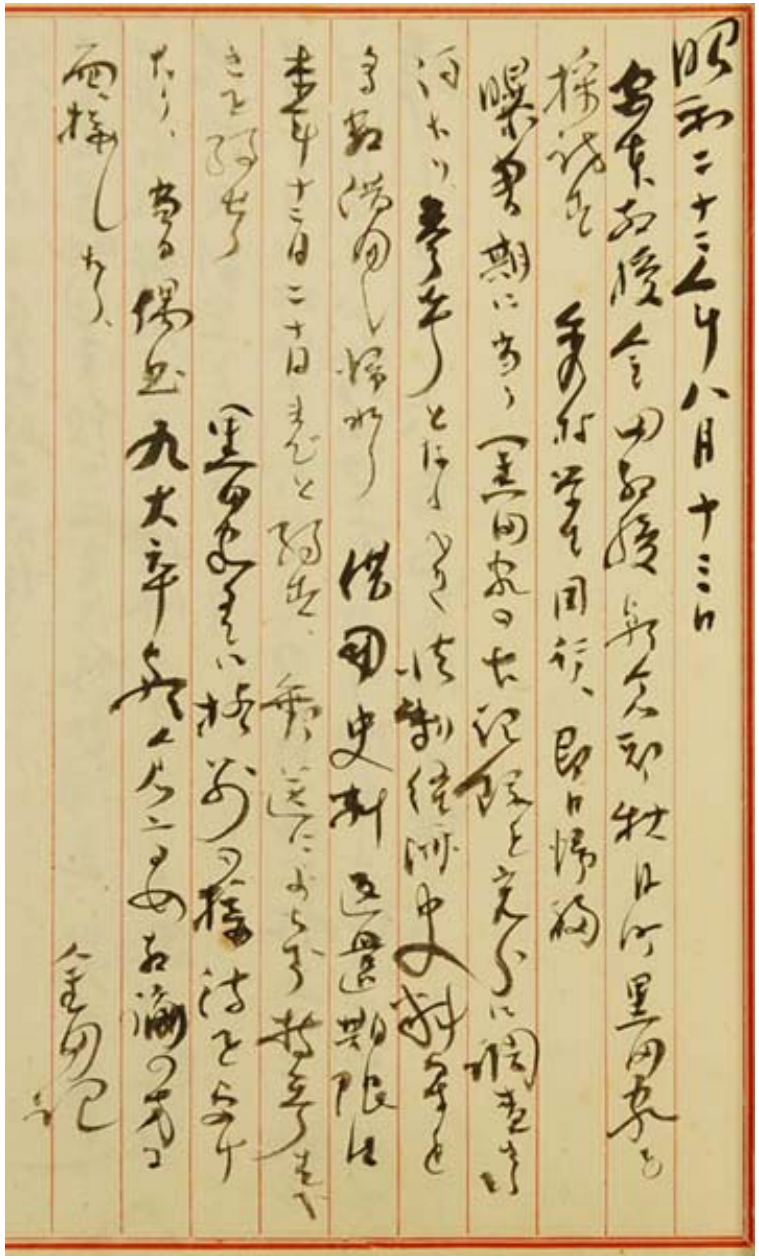
「昭和九年八月日
　九州文化史研究所
　　採訪日記」

タテ27.5㎝×ヨコ●19.7㎝

九州帝国大学法文学部罫紙29丁

昭和9年8月より同22年9月まで

昭和22年8月13日条



宮本教授、金田教授、朝倉郡秋月町黒田家を採訪す。秀村学生同行、即日帰福

曝書期に当り黒田家の古記録を充分に調査さるを得たり。参考となるべき法制経済史料等を多数借用し帰れり。借用史料返還期限は本年十二月二十日までと約す。郵送によらず持参すべきを約せり。黒田家にてハ格別の接待を受けたり。当日偶然九大卒朝倉高女教諭の方に面接したり。

金田記

戦後の資料収集の画期

- 近世庶民史料調査　昭和23年～同27年

九州地区の調査に九州文化史研究所も関わる

六角家文書、有松家文書、永井家文書、清末家文書などの寄贈をうける

- 科研費によるマイクロフィルム資料収集

昭和43・44年「近世日田とその周辺地域の総合的研究」広瀬家文書マイクロフィルム収集。

昭和49年「佐賀藩の総合研究」鍋島家文庫などマイクロフィルム収集

所蔵資料の概要

文書名	年代	出所	概要	検索手段
古野家文書	慶長7年（写）から大正5年、中心は江戸、明治	福岡県宮田町四郎丸	本文書は江戸時代史料が三分の一、明治以降史料が三分の二を占めている。江戸時代史料には、福岡藩の法令や達、石炭や真名子鉄山に関する史料、質地証文関係の史料が残存している。明治以降史料には村会、郡会等地方行政関係史料や酒造業経営史料の外に、炭坑経営帳簿類が数多く残存しており、明治期の地元資本による炭坑経営の解明に役立つものと思われる。	『目録』15
楠野家文書	寛文2年から明治28年、中心は江戸後	福岡県若松市修多羅	本文書は江戸時代史料が大半を占めている。年貢納入状況を示す「御徳帳」や同家の土地経営を表す「田畠名寄帳」「卸方帳」および「作り方帳」等が残存しており、福岡藩の夫役・夫銭・普請等の関係史料も豊富である。遠賀・鞍手両郡は江戸中期以降夫役を代銭納化した夫銭仕組が実施された区域であり、夫銭仕組解明に役立つ。また「焚石会所作法書」等の石炭関係の貴重史料も残存している。	『目録』15
有松家文書	享保4年から明治42年、中心は江戸後	福岡県嘉穂郡庄内町	当家文書は江戸時代の史料が三分の二を占め、残りは明治以降の史料である。前者には「綱分村軸帳」「田畠名寄帳」等綱分村の基本的な史料が残っており、借財道付等の一連として行った「地組」関係の史料、長崎街道筋の飯塚・内野宿に関する交通夫役関係史料等が豊富に含まれる。後者には貴重な石炭採掘関係史料がある。有松家本家・分家ともに大庄屋を勤めたことから広範囲にわたる史料が含まれており、福岡藩の農村史研究に欠かせぬ史料である。	『目録』16
六角文書	近世～近代	福岡県田川郡	小倉藩大庄屋史料	カード
名護屋松尾家文書・名護屋組文書	近世～近代	唐津	大庄屋史料	カード
江口家文書		松浦郡谷口村（唐津藩領）		カード
楠橋村文書	近世	福岡	福岡藩、石炭関係	調査中
長沼文庫	康正2年（写）から明治、中心は江戸	長沼賢海教授	九州大学名誉教授長沼賢海氏が採訪蒐集した写本類で、主に関係・浦方関係古文書である。昭和二十四年三月当研究所の購入したものである。	『目録』1／HP検索

笹尾家文書	宝暦10年から大正9年	山口県厚狭郡厚狭町／山口県山陽小野田市（現）	山口県厚狭郡厚狭町（現山陽小野田市）笹尾政信氏旧蔵。笹尾家は以前縄田家・伊藤家ともいい、数代厚狭村（町）の庄屋・年寄・目代・畦頭等を勤めた。内容は土地関係・金融関係史料が主なものである。昭和26年8月に寄贈されたもの。	『目録』1
元山文庫	永正10年から明治、中心は江戸	長崎県加津佐町	島原半島加津佐の郷土史家元山元造氏が収集したものを昭和26年2月に譲り受けたもの。内容はキリシタン史料・貿易史料・藩政史料・農山漁村史料・遊女史料等各方面にわたっており、概して島原藩内及び長崎付近の史料が中心となっている。	『目録』2
写本類	建武元年（写）から明治、中心は江戸	九州全域	九州文化史研究所において謄写した写本類	『目録』3／HP検索
清末家文書	応永21年から明治、中心は江戸後	企救郡到津村／小倉市上到津本町／小倉北区上到津？丁目（現）	小倉市上到津本町（現小倉北区上到津）清末襄氏より譲り受けたもの。同家は中世以前より代々到津庄清末名名主・宇佐八幡宮の社家・到津八幡宮の社司等を、又近世には庄屋役をしており、明治年間には板櫃村々長をつとめたことがある家である。	『目録』4
森文庫	万治2から大正、中心は江戸後、明治前	長崎市館内町	長崎市館内町森伊三次氏より譲り受けたもの。同家は外国人居留地の地主の惣代をしていた家である。	『目録』4
乙島守屋家文書	寛永元年から明治、中心は江戸	備中国浅口郡乙島村／岡山県玉島市乙島／岡山県倉敷市（現）	江戸時代に天領であった備中国浅口郡乙島村（現岡山県倉敷市乙島）の庄屋であった守屋家も古文書・古記録である。昭和14年に譲り受けたものである。乙島の地は松山川（高梁川）の河口にあり、同川上流に散在する天領の廻米集散地・各地大坂廻米の中継地として重要な役割を果たしており、同家文書は天領庄屋としての特色ある資料である。	『目録』5
松木文庫	寛永11年から明治、中心は江戸後	長崎	昭和29年度文部省科学研究費機関研究によって長崎市松木長兵衛氏より購入したものを同研究所に移管したもの。この中には長崎平戸町乙名の石本家（同研究所所蔵の天草石本家文書の本家に当たる）の旧蔵文書が多数含まれている。	『目録』6／HP検索
古賀文庫	元亀（写）から昭和、中心は江戸後、明治前	長崎	昭和29年度文部省科学研究費機関研究によって長崎市唐島喜徳氏より購入したものを同研究所に移管したもの。長崎市古賀十二郎氏の旧蔵に係り、これを長崎図書館と折半したものである。この中には紅毛通詞関係史料をはじめ長崎関係記録及図書等を多数含んでいる。	『目録』6／HP検索
林田家文書	江戸中から大正、中心は江戸後	福岡県浮羽郡田主丸町／福岡県久留米市（現）	林田家文書は昭和37年3月、林田守保氏が九州文化史研究所に寄贈されたもの。同家は振売商人から身を興した商家で、文化年間最盛期を迎えた際は、久留米藩の御用商人として活躍したうえ、一時大坂に出店を持つまでに至った。明治以降も大地主として存続したので、在方商人資本ないしは地主制研究にとって興味ある史料が多い。	『目録』7

佐々家文書	明治14年から大正、中心は明治	熊本	佐々家文書は昭和32年2月、佐々弘之氏が九州文化史研究所に寄贈されたもので、その中心は佐々干城等による明治16～26年の熊本海運会社と、明治26～38年までの熊本海運合資会社の関係史料である。その他には佐々家の私的文書が中心である。	『目録』8
権藤家文書	明和6年から大正、中心は江戸後、明治	久留米	権藤家文書は昭和36年11月、福岡市地行書店より同研究所が購入したもの。同家は筑後国御井郡小森野村（現福岡県久留米市）の庄屋を勤めた家であり、「御用書」など近世の公的文書が若干存在するが、主体をなすものは、近世後期から明治・大正期までの私的な経営帳簿である。	『目録』8
秋月黒田家文書	慶長7年から明治、中心は江戸後	甘木市	秋月黒田家文書、昭和31年、旧所蔵者黒田長敬氏より同研究所が購入した分と、秋月郷土館所蔵分とに二分されているが、この目録は両者を一括して掲載している。内容は藩政史料が中心をなすが、本藩である福岡藩政を知る上で貴重な史料でもある。	『目録』9／HP検索
千原家文書	慶長6年から大正	日田	千原家文書は昭和9年に購入されたものである。同家は日田の掛屋で、小倉・島原藩等の御用達を勤め、養蚕伝習所・炭田等の諸事業に参画した。文書の三分の一は江戸時代のもので、残りは明治以降のものである。前者は証文類が多く、後者は書状類が多い。	『目録』10・11・12／データ入力中
地価帳	明治8年から明治32年	福岡県	「福岡県地価帳」とは、明治8～10年の「地所取調帳」、同21年の「総丈量反別地価帳」「総丈量野取図帳」「総丈量脱漏一筆限帳」他、同22年の「修正地価帳」他、同32年の「地価修正一筆限帳表」他、の総称である。「福岡県地価帳」は、明治政府の土地制度、特にその財政・経済政策の基礎をなすところの県一円にわたる膨大な土地台帳であり、地租改正・地主制を究明する上での基本史料として、また市町村合併や地名（字名・小字名）等の変遷をも示すものとして貴重である。「福岡県地価帳」は、昭和30年前期に九州大学中央図書館より、譲渡	『目録』13・14／HP検索
宇土細川家文書	延久5年（写）から昭和10年、中心は江戸	宇土市	本史料の内容は宇土藩はもとより、熊本藩政の実態を知る好個のもので、一般に数少ない中世史料（写）や、幕府、本藩関係、公武関係、文芸関係の貴重史料を多く含む。	『目録』17／HP検索
財津家文書	中世から明治35年、中心は江戸	日田	本史料は戦国時代大友義鑑の書状をはじめ、農政関係（年貢・新田開発・入会等）や金融関係などの重要史料が多く、また明治時代の地租改正、郡政、村政史料を含む。	『目録』17／HP検索
三奈木黒田家文書	慶長5年（写）から大正11年、中心は江戸	甘木市	同家史料は黒田孝高や長政以降の歴代藩主の書状・知行宛行状をはじめ、福岡藩の行財政関係の貴重なものや、自家の知行地経営、地租改正後の経営史料が多く、また大幅の「福岡城下・博多絵図」などもある。また同家は代々長崎警備に携わっているところから関係史料も多い。なお同家は普段城下に居住していたが、甘木郡三奈木にも館を構えていた。	『目録』18／HP検索

吉田家文書	天正8年（写）から大正7年、中心は江戸	福岡	本史料は黒田孝高や長政以降の福岡藩主歴代の書状のほか、黒田高政関係のものが少なくない。同家は長政の四男高政が東蓮寺藩4万石（享保5年廃藩）に分知された時、これに付き随っている。そのため東蓮寺藩成立期の所領経営の実態をうかがうことが出来る史料が多い。さらに福岡藩家老を勤めた吉田治年による『吉田家伝録』『此君居秘録』、またその子栄年以降について記した『吉田続家伝録』、それに貴重な「福岡城下図」などがある。	『目録』19／HP検索
石本家文書	近世～近代	熊本県天草郡御領村	幕府御用達商人。貿易、金融、海運、土地関係など	『目録』20・21・22・23／HP検索
友枝文書	近世～近代	福岡県築上郡	小倉藩大庄屋史料	カード
矢加部文書	近世～近代	八女	久留米藩庄屋史料	カード
諸岡文書	近世～近代	佐賀県東松浦郡入野村（唐津藩領）	唐津藩大庄屋史料	カード／HP検索
山崎文書	近世～近代	福岡	福岡藩浦方・漁村史料	カード
富士谷文書	近世～近代	柳川	柳川藩の京都留守所兼御用商人	カード
清水文書	近世～近代	佐賀県武雄市	医学関係	カード
永井文書	近世～近代	福岡県仲津郡	小倉藩大庄屋史料	カード
乙咩文書	近世～近代	大分県四日市市	庄屋史料	カード
薬師寺文書	近世～近代	長崎市	長崎町年寄史料	カード
手嶋家文書	近世～近代	日田	商家資料	カード／HP検索
堀文書	近世初期		織田信長朱印状、豊臣秀吉朱印状、堀秀治書状、大久保忠清書状、土肥利勝書状、徳川家康書状、徳川秀忠書状、羽柴利長書状、本多正純書状写、石川長門・彦坂小形部連署書状写、本多正信書状写	カード

岡田陽一氏蒐集文書（ZH－9）	幕末～明治	岡田陽一教授	鉱山関係資料	カード／HP検索
ZB史料	近世～近代	九州各地	旧九州文化史研究所が長年にわたり収集した史料のうち、比較的小さなまとまりの文書群を一括。福岡藩の早良郡西新町、鞍手郡、糸島・糟屋郡、久留米藩の福童村の文書などがある。	カード／一部HP検索／一部画像あり
崎津文書	近世	肥後国天草郡	天草郡崎津村庄屋文書	カード
佐藤家文書		日田郡堂尾村		カード
山田龍男氏寄贈文書	近世	山田龍男教授	肥後国阿蘇郡・玉名郡・下益城郡・飽託（田）郡・八代郡・菊池郡・熊本、筑前国嘉麻郡小野谷村ほかの地方文書、戦後村役場文書など。「未整理多分に在り」。	カード
鎌田家文書	近世	福岡		カード

参考文献

梶嶋政司「草創期九州文化史研究所の史料収集活動」(『九州文化史研究所紀要』49、九大記録資料館、2006)

秀村選三「梁山泊「九州文化史研究所」(『九州文化史研究所紀要』48、九大九州文化史研究所、2005)

『九州文化史研究所所蔵古文書目録』全23冊

城下町福岡の建設

慶長5（1600）年

黒田長政、関ヶ原の戦功により筑前国入部。名島城に入る。

慶長6（1601）年～

長政、那珂郡警固村福崎に築城はじめる。町立、町人移住、寺の建設もはじまる。

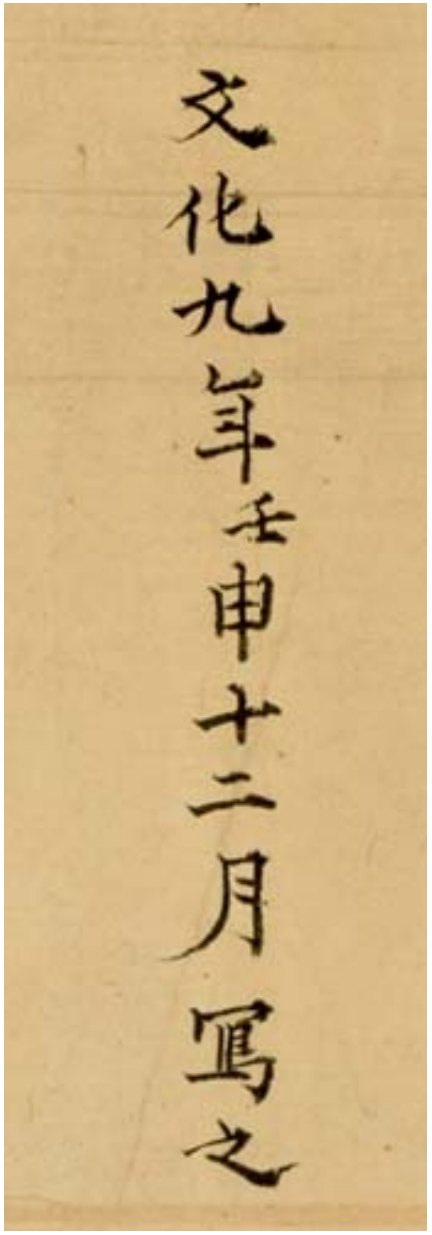
慶長8（1603）年

「御城外構、大堀出来」

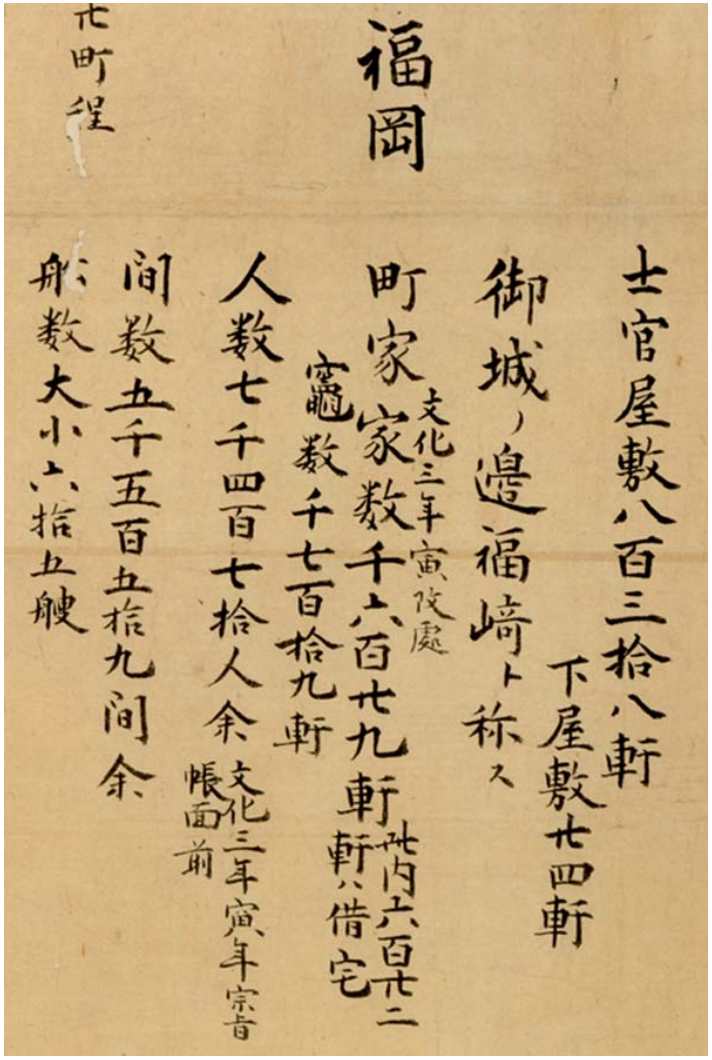
福岡城下・博多・近隣古図（三奈木黒田家文書423） タテ223.2㎝×ヨコ266.5㎝

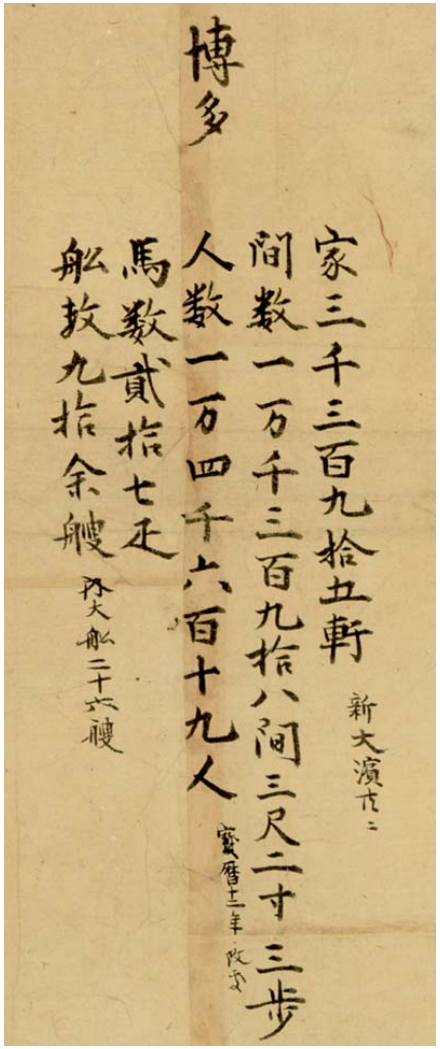
三奈木黒田家文書

- 三奈木黒田家は、摂津国伊丹の豪族、加藤又左衛門の次男玉松（後に一成）が黒田孝高に養われて一家を立て、黒田姓を与えられたのに始まる。慶長六年（一六〇一）黒田長政が筑前に入国して以来、黒田一成は下座郡に一万二〇〇〇石を与えられた。三奈木村に館を構えるとともに、通常は福岡城内の家老屋敷に住んだ。以後、下座郡のほか、夜須・御笠・那珂・粕屋各郡の内に加増をうけ、元禄十五年（一七〇二）一万六二〇五石余となり、明治維新を迎えた。その間、大老とも称されて、福岡藩の筆頭家老としての地位を保った。
- 同家史料は、約六〇〇〇点からなる。黒田孝高や長政以降の歴代藩主の書状・知行宛行状をはじめ、福岡藩の行政関係の貴重なものや、自家の知行地経営、地租改正後の経営史料が多く、また大幅の「福岡城下町・博多・近隣古図」がある。昭和三十年十一月十五日、九州大学文学部箭内健次教授が当主黒田一夫氏より譲渡の意向をうけて、九州大学へ搬入されて現在に至ったものである。



- 文化9（1812）年12月に写したもの。
- 原図は不明





- 福岡　武家屋敷838軒　町屋1629軒　人数7470人余
- 博多　家3395軒　人数14619人

福岡城下部分

- 本丸には「御殿跡」、御殿とは藩主の居宅
- 三の丸西側には「御館」（2代忠之以降居宅）、「御新宅」（3代光之移転）
- 城内には家老クラスの上級家臣の屋敷地がならぶ。名前、俸禄高、家紋、槍印
- 黒田美作とあるのが三奈木黒田家。家紋唐笠、黒田美作のみ俸禄高の記載なし

- メインストリート「六町筋」（現在の昭和通り） 町屋は空欄
  簀子町、大工町、本町、呉服町、上（西）名島町、中（東）名島町
- 上中級家臣の居住地域、および寺院については詳しく描く

- 唐人町から地行あたりに下級武士の屋敷がならぶ
- 新大工町は寛永15（1638）年頃、大工町を移転
- 唐人町の北の侍屋敷は寛永20（1643）頃、松原を切り開いて造成された

- 大堀　東西300間、南北310間　大堀の周囲は石垣が描かれている

- 黒田忠之、承応元（1652）年、東照宮に家康の神霊を勧請
- 源光院（3代将軍家光の位牌を安置）、寛文9（1669）年薬院町から移転
- 波戸は万治2（1659）より寛文2（1662）まで3年をへて成就。新波戸は寛政年中

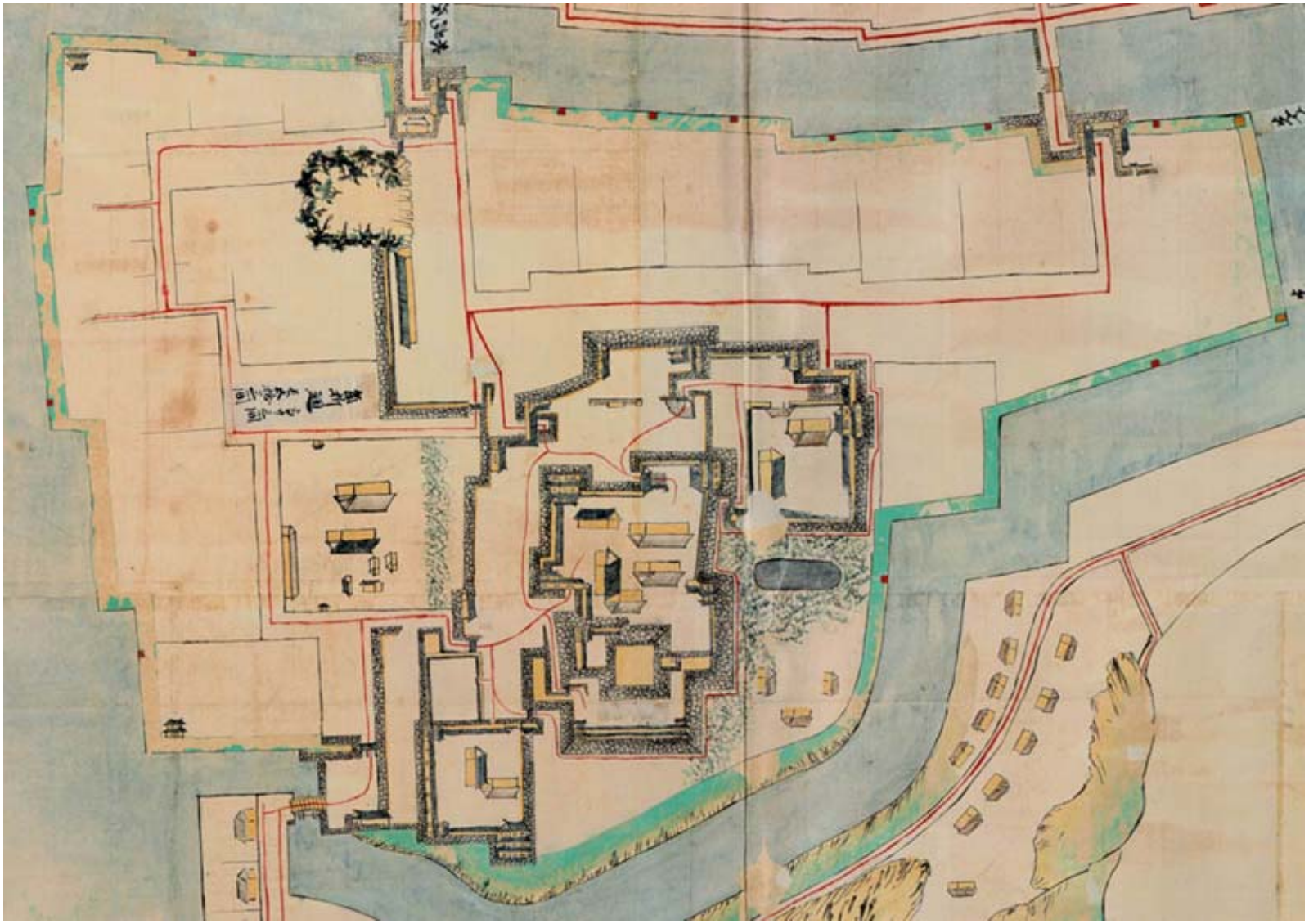
三奈木黒田家文書423「福岡城下町・博多・近隣古図」の特色

- 武家屋敷地と寺社地については詳細、町屋は省略
- 中級、上級の武家屋敷地については家臣の名前のほか俸禄高や家紋が記載されている
- 三奈木黒田家に伝わった本図は、福岡藩の公用図というよりも、公用のものを参照して作成された私用の絵図と考えられる
- 今から約200年前、1800年頃の福岡・博多の景観を知ることがきでる貴重な資料

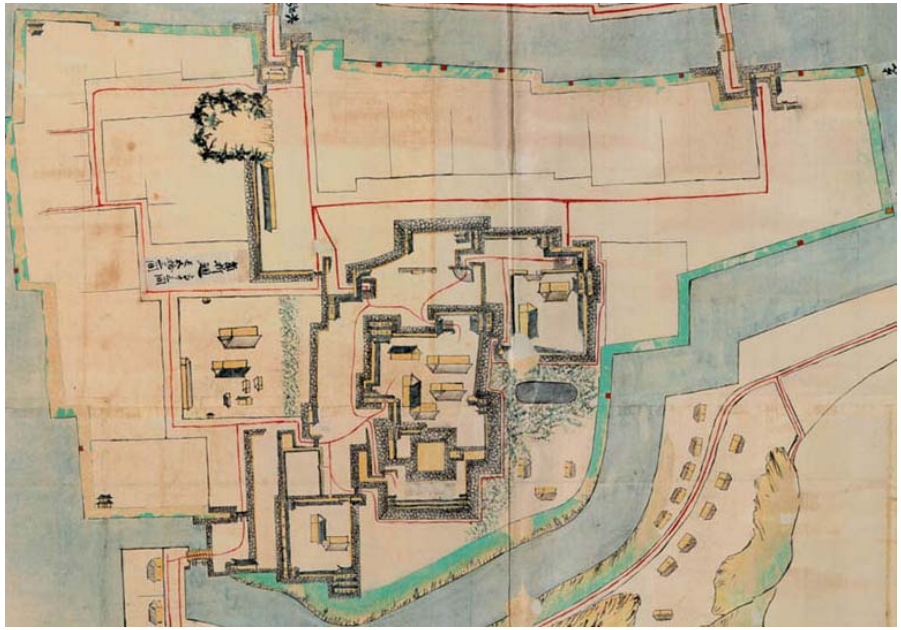
福岡城下図（吉田家文書528） タテ117㎝×ヨコ198㎝

吉田家文書

- 吉田家は、播磨国姫路の北、八代村の出身で、八代長利が姫路城主小寺（黒田）孝高に仕えて、赤松氏の一族吉田の姓を与えられ、黒田孝高・長政の豊前・筑前入国に随ったが、以後吉田家では江戸時代中・後期に福岡藩の家老など要職を歴任した者が多い。なお、元和九年（一六二三）長政の四男高政が福岡支藩の東蓮寺藩四万石に分知された時、吉田長利の子重成は、これに付き随っている。
- 上記の事情を反映して、吉田家文書には、黒田孝高や長政以降の福岡藩主歴代の書状のほか、黒田高政関係のものが少なくない。東蓮寺藩成立期の所領経営の実態をうかがうことができる。さらに、福岡藩家老を務めた吉田治年による『吉田家伝録』『此君居秘録』、またその子栄年以降について記した『吉田続家伝録』、それに貴重な「福岡城下絵図」など、約八〇〇点がある。これらは昭和三十七年、吉田ハル氏より寄贈を受けたものである。

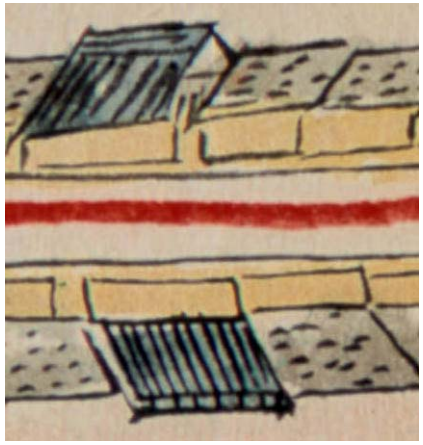


- 本丸に御殿が描かれる。三の丸西側の建物は2代忠之の居宅か
- 家老クラスの上級家臣の屋敷地は空白
- 通路を赤線で表記



・福岡城下図（左）は、家老クラスの屋敷地が空白

・福岡城下町・博多・近隣古図（右）は、本丸、二の丸、三の丸に藩主の居宅が描かれていない。



- 六町筋の町並みが描かれている
- 板葺の町並みに、瓦葺きの建物が見られる

- 唐人町の南に寛永15（1638）年頃移転した新大工町が画かれない
- 唐人町の北側は松原。寛永20（1643）年頃に侍屋敷を造成される

- 大堀の周囲に石垣がみられない
- 大堀の南側には田地がひろがる

- 付箋「江戸工被得御意相済、埋申田」
- 『黒田新続家譜』延宝7（1679）年条

「城外堀廻の修補功を終る。（中略）此頃ハ鳥飼の方やうやう水あせて、草菜の地となりぬ。此度鳥飼の方ハ農民にあたへて新田となし」

- 東照宮が勧請されていない
- 源光院が移転されていない
- 寛永2（1625）年構築の御座船鳳凰丸用の堀らしきものが描かれる
- 波戸が描かれていない

吉田家文書528「福岡城下絵図」の特徴

- 城下町建設に関わった職人、町人が住んだと考えられる六町筋の町並みが描かれる
- 本丸、三の丸西側に藩主居宅と思われる建造物が描かれている
- 荒戸山に東照宮、源光院が描かれていない
- 荒戸の波戸が描かれていない、但し寛永2（1625）年構築の御座船鳳凰丸用の堀らしきものが描かれている
- 唐人町の北側に松林が描かれている
- 唐人町の南側に新大工町が描かれていない
- 大堀の南、鳥飼周辺に田地がひろがる
- 以上から、本絵図には近世前期の福岡城下の景観が描かれている。現在知られている福岡城下を描いた絵図のなかでも最も時代を遡る景観と考えられる

- その他の特徴として、付箋が付されている

参考文献

福岡城下町・博多・近隣古図について

宮崎克則『古地図のなかの福岡・博多』（海鳥社、2005）

福岡城下絵図について

小林茂・佐伯弘次「近世の福岡・博多市街絵図」（『歴史学・地理学年報』16、九州大学教養部、1992）

『福岡城の櫓』（福岡市教育委員会、1994）

西田博「福岡城の歴史と構造」（『西南地域史研究』10、1995）